

■ 発行日：2026年8月31日
■ 発行所：栃木県中小企業家同友会
〒321-0968 栃木県宇都宮市中今泉2-3-13
TEL 028-612-3826 FAX 028-612-3827
E-mail：t-doyu@ninus.ocn.ne.jp
URL：http://www.tochigi.doyu.jp/



■ 企画編集：広報委員会 ■ 印刷：有限会社 赤札堂印刷所

様

News Topic 01

栃木のNEWS 県南支部7月例会

久しぶりの県南例会。今回のテーマは、「この先3年、自社はどう変わりますか?～多様な視点から自社の可能性を掘り上げよう～」でした。

まずは参加者全員で内閣府の経済レポートを読み、客観的なデータから外部環境の変化を確認。その後、ホワイトボードを【機会】と【脅威】に分け、それぞれが現場で感じている変化を出し合いました。

用意したテーブルと椅子が足りなくなるほど多くの方に参加いただき、議論も活発に。ファシリテーターの山崎支部長の板書も休む暇がなく、気が付けばホワイトボード2枚を埋め尽くしていました。

製造、運送、金融・保険、コンサル、商社、人材など業種は様々でしたが、出てきたキーワードには共通点がありました。

【AI】【格差】【設備投資】【高齢化による人材不足】【法律の厳格化】

そして議論を進めるうちに見えてきたのは、「機会と脅威は表裏一体である」ということです。

変化を恐れるのではなく、その変化によって生まれる新たな機会に目を向け、自社の付加価値を高める。そして、大企業にはできない、あるいは大企業がやらない領域にこそ、我々中小企業の活躍分野がある。そこに突破口を見出す議論へと発展していきました。

2030年を目前に、労働力不足、地方の過疎化、都市部への一極集中、インフラの老朽化など、日本社会は大きな構造変化を迎えようとしています。



私自身は今後、日本でも格差がさらに

拡大し、企業社会においても大手・中堅企業と零細企業への二極化が進み、「企業社会における中間階層の空洞化」が進んでいくのではないかと考えています。

かつての高度経済成長期の日本には、厚い中間層が存在しました。多くの人が所得を増やし、消費し、企業が成長し、さらに雇用と所得を生み出す。いわば「大衆の力」が日本経済を押し上げていた時代だったのではないのでしょうか。企業も同じです。

自分の器を小さくし、事業規模を縮小して自分や家族が生き残る「零細化」も、一つの経営戦略だと思います。

しかし、臨席されていた齋藤代表の指摘にもあったように、中小企業の零細化は事業承継を伴わず、そのまま先細りしていくケースも少なくありません。そこに、ワクワクできる10年ビジョンを描ける希望はあるのだろうか?

今一度、日本社会と地域に活力と希望を取り戻すためには、我々中小企業家がこの先3年、脅威と闘いながらも新しい機会を創り出し、社員を雇い、人を育て、所得を生み、そして次の世代へ事業をつないでいく。その一社一社の存在こそが、地域社会の「厚い中間層」をつくるのではないかと思います。

中小企業は、地域社会の中間層を支える灯台である。我々自身がいきいきと輝き、日本社会と地域を照らしていく。そんな使命を改めて考えさせられる例会でした。

久しぶりの県南例会でしたが、県南らしい自由闊達で、活き活きとした場となりました。

[文責：(株)行廣国際アカデミー 代表取締役 行廣 智明 (県南支部)]

News Topic 02

栃木のNEWS 鹿沼日光支部7月例会

7月27日にふらっとで開催されました7月例会の様子を報告致します。

今回のテーマは「AI」でした。支部会員のうち2名が仕事の中でAIをどのように利用しているかを報告

しました。

1人目の宇賀神美菜子氏(NPO法人CCV CCV ウェルフェア)は、「Rimo Voice」というAI文字起こしアプリケーション(以下、「AIアプリ」といいます。)

を利用して各会議を録音し、その音声データをAIアプリに読み込ませて議事録を作成しているとのこと。

AIアプリを利用する前は、会議の記録を取りながら協議をしていて大変だったが、AIアプリを利用することで会議に集中することができ、議事録の作成時間も大幅に削減できたと報告されました。

また、利用者や保護者の面談業務も多いようで、面談記録もAIアプリを利用して作成時間を大幅に削減できたと報告されました。

その他に、Canvaというイラスト生成AIも利用しており、事業所で利用するイラストを外部のイラストレーターに頼むより安価で簡単に作成できたと報告されました。

2人目の斎藤秀樹氏(株式会社ウイステリアコンパス)は、会社内で次のAIサービスを利用していることを報告されました。

Gemini (Google Workspace 契約) NotebookLM (Google Workspace 契約) Claude (Team版Standard 契約) それぞれ特徴があり、仕事の用途に合わせて利用するAIを使い分けているとのこと。

その結果、議事録の作成だけでなく、その議事録からの当初計画との比較整理もAIが行い、プレゼン

資料もAIが作成できるなど、作業効率が大幅にアップしたと報告されました。但し、利用するAIサービスは、顧客情報など会社内の機微情報がそのAIに吸い取られない

ようなサービスを展開しているものを選んでいても説明されました。顧客との信頼関係が重要な中でその顧客の情報がAI側に勝手に吸い取られるのは自分としても気を付けなければならない点だと思いました。

上記2名の報告後、参加者で自由討論、質疑応答が行われました。参加者は20代から50代まで幅広く、その年代ごとのAIの関わり方や捉え方の違いを知ることができました。今後、AIが会員企業の中に入っていくことは止められません。AIに自分の仕事が奪われるのではなく、AIは自分の仕事を補助する有能なパートナーとなるよう、AIと賢く付き合えるようになりたいと思いました。その前に勇気をもってAIに投資しなければならないことも改めて痛感しました(いつ頃投資できるかな…)。

以上、報告です。

[文責: 株コメノイ 代表取締役 浅野 知則(理事)]



News Topic 03

栃木のNEWS 新入会員紹介

「栃木のLINE屋さん」木場 真智子さん

～最新AIツールとLINEを駆使し、中小企業の集客をサポート～



栃木のLINE屋さん
木場真智子氏

栃木県中小企業家同友会に、新たな仲間が加わりました!今回は、LINE公式アカウントの構築・運用代行をメインに事業展開されている「栃木のLINE屋さん」こと、木場真智子さんにお話を伺いました。

Webライターから「LINEの専門家」へ 木場さんは元々、Web媒体で検索上位を目指す「SEO記事」を執筆するライターとしてご活躍されていました。そこから集客や成約に繋げるマーケティング業務へと幅を広げ、現在のLINE公式アカウント構築を主軸とする事業へと至りました。

木場さんがLINEに注目する理由は「個人事業主や小規模な中小企業にこそ、非常に効果的だから」だと言います。お客様がわざわざ検索してホームページを見に行くのを待つのではなく、日常的に利用するLINEへ直接クーポンや最新情報を届けることで、リピーター獲得に直結しやすいのが大きな強みです。実際に、直売所を営む卵農場さんがLINEを導入したところ、新商品の案内などがすぐにお客様に届き、大変好評を得

ているという成功事例も生まれています。

AIとデザインツールを活用した手厚い支援 日々の業務に最新のAI技術を積極的に取り入れている点も、木場さんの大きな特徴です。LINEとAIを連携させてお客様の動向データを可視化する仕組みづくりや、「Canva」などのデザインツールとAIを駆使した名刺、チラシ、簡易ホームページの作成も手掛けています。一方で、「AIには情報漏洩などのセキュリティリスクもある」と冷静な視点も持ち合わせており、Googleなどの安全な環境と紐付けながら、正しい知識に基づいた活用を徹底されています。

同友会での目標と、今後の展望 北海道(函館支部)の会員とも繋がりがあり、オンラインでAI勉強会を共催するなど、すでに広いネットワークをお持ちの木場さん。将来的には、栃木の同友会の皆様とも全国のネットワークを繋ぎ、活発な情報交換ができる場を作りたいと語ります。

「経営者の皆様はお忙しい方が多いので、AIを使って少しでも業務を効率化したり、効果的な集客ができるよう、勉強会などの形でお手伝いできれば」と、

ご自身の知見を会に還元していくことにも意欲的です。

プライベートでは、来年小学生になるお子様を育てるお母様でもあります。子育てと仕事の両立に奮闘しながらも、「社会としっかり繋がって、人の役に立つ仕事を続けていきたい」という強い思いを胸に、アクティブに行動されています。

経営の土台づくりに向けて 現在は創業したばかりで、すべてが手探りの状態ですが、自社の事業を安定して長く続けるため、経営学の体系的な学びの必要性を痛感されているとのこと。手探り状態からある程度脱却し、子育ても落ち着いた時点で、10年先を見据え、会社の土台となる「経営指針」をしっかりと作

り上げ、数字の管理も強化していきたいという力強い目標を伺うことができました。

「皆様からたくさんのことを吸収して成長していきたいです。AIの活用やLINEのことなどでお困りごとがあれば、ぜひお気軽にお声がけください!」と笑顔で語ってくださった木場さん。これからのご活躍が大変楽しみです。

【編集後記】最新のAIツールを軽やかに使いこなしながらも、経営の基礎や土台をしっかりと学ぼうとする実直な姿勢がとても印象的でした。「栃木のLINE屋さん」の今後のご活躍に期待大です!

[文責:事務局 江口好子]

コラム

農業経営と中小企業経営

8月上旬。11月5日の経営フォーラムの報告者である石橋氏とZoomで打ち合わせをした。北海道で元JA理事長を務めた86歳の石橋氏は驚くほど未来を見ている。短い時間であったが、農業の過去と未来を語ってくれた。

わたしは設備業者なので、農業には疎い。打合せの後、石橋氏に講演内容をお願いするために戦後日本の農業の概観を調べてみた。どうやって調べたら良いのかわからなかったのも、まずはAIに以下のような質問を入れてみた。「ここ40年の農業政策で、大きな転換点と言えるものを年代順で挙げてください。」「北海道農業と照らし合わせた場合に、どう見えてきますか?」そうすると、AIは以下のように答えた。

- ・「保護・価格維持を中心とした農政」から、「市場・経営体重視」、さらに「食料安全保障・持続可能性重視」へ、この40年でその様に移ってきた。
- ・北海道農業と重ねると、日本の農業政策の40年はかなり違った姿に見える。結論を先に言うと、国が1990年代以降に目指した「大規模化・専業化・担い手への農地集積」は、北海道ではすでにかかなり進んでいた、ということ。逆に2020年代の「食料安全保障」になると、北海道の重要性がもう一度大きく上がってくる。

そして、「効率的で安定した農業経営体を育成する」という一言がでてきた。

あれ?どこか中小企業向けの施策と似ている。そう感じたので、さらに以下のような質問をした。「農業政策と中小企業政策が同じベクトルを持っているように見えますが、どうでしょうか?」

AIは答えた。

- ・はい。かなり同じベクトルを持っています。しかも単に「似ている」というより、1990年代以降の農業

政策と中小企業政策は、日本の産業政策全体の同じ思想転換から出ていると見ると理解しやすいです。大きく言えば、「広く一律に保護する」→「自立・競争力・生産性を高める主体に重点支援する」→「しかし、それだけでは地域も供給基盤も維持できないので、小規模主体の持続も再評価する」という流れです。

という回答だった。今、農業政策ですすめられている「適正価格・省力化・スマート農業」は中小企業政策で見れば、「価格転嫁・省力化・DX・賃上げ」にあたる。どちらかといえば、農業政策のほうが中小企業政策よりも少し先に進んでいるようだ。農業における大規模化に相当するのは、中小企業では2024年版中小企業白書では100億円企業の育成だろう。

そう考えると、某氏が「人口減少の観点からして、小規模事業者の中でも中堅企業にはならない、なろうとしない、慢性的な赤字企業はただの寄生虫ですから、退場してもらったほうがいい」、「中小企業は消えるしかない」といっていたのは、そういったことの地ならしだったのか。

北海道の農業は他の場所から見れば人口減少や担い手不足が先行する。だから、見方を変えれば、北海道で起きていることはわれわれ中小企業経営者にとっての先行指標になる。すでに北海道は米どころになってかなり経ち、今ではにんにく・さつまいも・落花生なども栽培され始めている。従来は道内で育てにくいとされていたものが、気候変動で状況が変わってきている。

北海道農業のように、われわれの経営の足元も変わってきていないか?

11月のフォーラムでは、参加者それぞれが、今の自分の状況を考えるきっかけになればと考えている。

[文責:株式会社 共立 代表取締役 石綱知進(専務理事)]

9月・10月行事予定

- 9月7日(月) 18:00～
同友会ってどういうかい? ★
東市民活動センター 第1学習室
- 9月10日(木) 18:00～
理事会 ※
東市民活動センター 第1学習室
- 9月16日(水) 18:00～
ラウンジ県南 ★
あいとぴあ
- 9月18日(金) 18:30～
県央支部主催 お月見会 ★
お料理とお酒 Oto
会費 ￥6,500-

- 10月5日(月) 18:30～
10月度 県例会 ★
コンセーレ カトレアルーム
- 10月15日(木) 18:00～
理事会 ※
東市民活動センター 第1学習室
- 10月21日(水) 18:30～
県南支部例会 ★
あいとぴあ
- 10月23日(金) 18:30～
県央支部例会 ★
豊郷地区センター 学習室1

- ※は該当者のみ、☆は申し込みされた方のみ、★はどなたでもOK、◎は全国行事
詳細はチラシまたはe-doyu、HP <https://www.tochigi.doyu.jp/>をご覧ください。



【予告：11月5日(木) 栃木県中小企業家同友会フォーラム】

～ 世界が注目するブランドを築いた手腕に学ぶ ～

ハーゲンダッツの原料に選ばれたJA浜中町。

その快挙を主導した、石橋 榮紀 元組合長をお迎えし、栃木県中小企業家同友会フォーラムを開催いたします！

地方からいかにして強固なブランドと信頼を築き上げるのか。その実践知に触れられるまたとない機会です。経営のヒントが必ず見つかります。

● 開催日：11月5日（木）13：00～

「これからの経営のヒントを得たい」「自社をさらに飛躍させたい」という多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております！

事務局からのお知らせ

- ◆ ダイバーシティ委員会の会員を引き続き募集しています。
多様化の時代、勉強の意味も兼ねて、是非、委員会に参加してください。
みなさまの参加をお待ちしております。